

くまのこだより



令和5（2024）年9月2日（月）発行

赤磐市桜が丘東 6-6-704

さくらが丘保育園

『子ども同士の関わりが大切です』

私たちが伝えたい7つのメッセージより

「こどもはこどもの中で育つ」といわれますが、保育園というこども集団を基本とする場所にいるとそう思う場面が多々あります。

こどもは仲間の姿をお手本にしていろいろなことを覚えていきます。「あら、こんなことどこで覚えたのかしら」といい事わるい事を大人が知らないうちに習得しています。真似をしてやってみて褒められることもあれば、痛い目に合うこともあります。時に大人が介入しないといけないトラブルに発展してしまうこと、大人から感謝されることも。こども社会はお互いがお手本で共に育ちあう関係なんですね。

近頃あまり歌いませんが『とんとん友だち』という歌があります。よろしければYouTubeなどで聞いてみてくださいね。 花房 由美

『とんとん友だち』

とんとん友だち みんなで九人

一(い)っちゃん 二(じ)ろくん 三(さ)ぶちゃん

四(し)ゲ坊 五(ご)ろちゃん

六(ろく)んぼ 七(なな)ちん 八(や)っちゃんこに

九(きゅう)どんどん

※誰(だれ)かが叱(しか)られた みんなでごめんなさい

※2誰(だれ)かがくしゃみした みんなが風邪(かぜ)ひいた

※3誰(だれ)かが怪我(けが)をした みんながべそかいた



朝夕の検診強化月間です。

登園・降園の際の、あいさつ時に、触診（握手にて）・視診をさせていただきます。「保護者の方と一緒にあいさつに来てね」とお子様に伝えてあります。ご協力をお願いします。

降園時、翌日の休みを職員に伝えても、おまかせシステムの欠席連絡の入力はお願いします。

お知らせ

○9月12日（木）・13日（金）、そら組が国立吉備青少年自然の家に、キャンプに行きます。

ハイキングをしたり、キャンプファイヤーをしたり、友だちと一緒に寝たり…
親元を離れて、友だちや職員と一緒に楽しむことができます。

○運動会は10月5日（土）です。にじ組以上児の参加となります。年間の行事予定は、おまかせシステムでご確認ください。随時更新いたします。



丘の上ぱるテラス
夏祭り
面白かったよ♪

シャボン玉
まてまて～♪





すずらんより

防災週間（8月30日～9月5日）

9月1日は防災の日、9月9日は救急の日です。もしもの時に備え、非常食や水、ラジオ、懐中電灯などを用意しておきましょう。

また、お子さまにも火事や地震が起こったらどのように行動すべきか、煙を吸わずに逃げる方法や地震の時は机の下に隠れるなど、日頃から繰り返し話し、緊急時に備えるようにしましょう。

家の中も要チェック!!!

☆こどもの手の届くところに置かないで☆
薬、洗剤、タバコ、ライター、ポット、炊飯器、刃物、針、こどもが飲み込める大きさの物

☆溺水防止☆
浴室にこどもだけでは入れないように配慮する、湯船の水を抜いておく

☆転落防止☆
踏み台になるものはベランダに置かない

☆感電防止☆
コンセントに触れない工夫を

☆窒息防止☆
遊び食べには注意を



私の好きな絵本

幼い頃に『ぐりとぐら』を読んでいた記憶しかないほど、大好きな絵本です。絵本に出てくる大きなカステラがとても印象的で、その絵を見るたびに「美味しそう」や「いつかこんなに大きなカステラ食べてみたいな」と思いながら見ていました。

下山 静菜





『クラスで今！ブームのあそび① つき組』

カードめくりを楽しんでいます。初めてした時は、自分の色が何色かわからなかったり、探すのに時間がかかったりしていましたが、回数を重ねるごとに、めくるスピードも速くなっています。

同じチームの友だちとどうやったら勝てるのか考えたり、自分の番ではない時は応援したりと、団結力も芽生えていているように感じています。

『クラスで今！ブームのあそび② はな組』

「おきばりやす」や「幸せなら手をたたこう」などのふれあいあそびや歌あそびが最近のブームです。「おきばりやす」は、保育者が歌いながら膝の上のこどもの手を繋いで揺らし、こどもは落ちないように踏ん張り、最後はドスンと落ちるのを楽しむあそびです。

こどもたちは、保育者が「おきばりやす」と歌を口ずさむと、ニコニコしながら保育者のひざの上に座りに来ます。一度終わってもまたやりたくて、急いでひざの上に座ったり、手を差し出し「あ、あ」と声を出したりして「もう一回して！」のアピールをしています。何度もくり返し楽しんでいます。



～集団あそび紹介～ 『カードめくり競争』

- ①2 チームに分かれ、それぞれが赤・白どちらを担当するか決めます。
※同じ人数になるようにします。
- ②カードを半分に分け、一方を赤、もう一方を白の面にしてランダムに並べます。
※赤と白の枚数は同じになるようにします。
- ③カードから離れて、チームごとに向かい合って1列に並びます。
- ④「よーい、スタート！」の合図で、カードを自分のチームの色になるようにめくっていきます。
- ⑤「おしまい！」の合図でめくるのを止め、元の位置に戻ります。
※制限時間は30～60秒ほどがおすすめです。
- ⑥赤・白のカードを数え、より枚数の多かったチームの勝ちです！



めくってはめくり返され、チームのカードの枚数が常に変化するので、最後まで勝敗



花は咲く



【丘の上るテラス】(さくらが丘保育園敷地内の施設を合わせて総称)の夏祭りがこどもセンターでありました。そら組はクラス単位ではなく、個人で行動することに…。ひとり一枚、スタンプラリーカードを持って各コーナーを回りました。

お祭りスタンプラリーのやり方など伝えると、嬉しそうに友だちを誘ったり「お姉ちゃん(こどもセンターに姉がいる)の所はどこ?」とやる気満々です。友だち同士で相談しながら「次はどこに行く?」「お化け屋敷怖いかな?」「カードになんて書いてあるか読んで」など相談しながら回っていました。保育者は必要に応じてフォローしつつ、そっと見守っていました。

こどもたちが、友だちと相談したり、助け合ったりできる活動を取り入れ、コミュニケーション力を育てたいと思います。

そら組 土屋 勇気



色水あそびをしようと、赤と青の絵の具、プリンカップを用意しました。最初は赤と青の綺麗な色水を見ることを楽しんでいましたが、1人の子が色水を混ぜ「あ!紫色になった!」と。その声を聞いた他の子たちは、自分もやってみようと、色水を混ぜます。紫色になる子もいましたが「あれ?ピンク色だよね?」と驚いている子もいました。なぜピンク色になったのか友だちに聞いたり、一緒に色水を混ぜて考えたりしており、友だちと一緒に気になったことを解決しているように感じました。そして、色水の入ったプリンカップをベンチに並べ、お店屋さんごっこへと遊びが展開していきました。

こどもたちの「何だろう?」「不思議だな」に、大人がすぐに答えを導くのではなく、こども同士で考えながら話ができる機会を、しっかりと作るように意識していきたいです。

ほし組 下山 静菜



いちばんぼし





Full Moon

Half Moon

Crescent Moon



好きなあそびをしている時、自分の思うように玩具を繋げることができず、涙が出た A さん。違うあそびをしていた B さんが泣いている A さんに気づき「どしたん?」「できんの?」と優しく声を掛けました。何度も聞き返しながら B さんは、「こう?」と、A さんの望む形を代わりに作ろうとしました。すると A さんの涙も止まり、A さんは B さんに作ってもらったものを嬉しそうに眺め、B さんは安心したように自分のしていたあそびに戻っていました。自分がしていたあそびを後回しにして、友だちに寄り添う、友だちのために代わりに作るという行動に感動しました。また、優しい心が芽生えていることに心が暖かくなりました。言葉で助けてほしいことを伝えた訳ではありませんが、毎日一緒に過ごしていることも私たちは、言葉だけでなく、表情などからお互い分かり合えるものがあるのかなと感じました。これからも子どもたち同士のやりとり、かかわりを側で見守りながら、大切にしていけたらと思います。

つき組 竹内 和羅



製作で作ったオリジナルのうちわ。

保育者が子どもたちに「どう?風きた?」「涼しい?」と風を送ると「キャー!」と大喜び。その後、子ども同士で同じようにうちわで扇ぎ合って「どう?」「涼しい?」などとおしゃべりもしながら、風の送り合いを楽しみました。

「他のクラスにも風を送ろう」とうちわを持っておでかけをし、各クラスでパタパタパタ。反応はさまざまでしたが「涼しい」「もっとして〜」と言ってもらえると嬉しくて一生懸命扇いでいました。

大人とのやりとりを基盤に、子ども同士、異年齢でのやりとり、かかわりと幅がひろがり大切にしています。

にじ組 大森 航輝



にじのかけはし



ままごとで、保育者と一緒に「どうぞ」「ありがとう」といった簡単なやりとりを繰り返して遊んでいると、こども同士でも色々なやりとりが自然と出てきます。「乾杯」と手を伸ばし、コップを当てようとしたり、自分が持っている食べ物を他の子の持っている鍋の中に、入れてあげようとしたりと、保育者が間に入らなくても遊べる事などが見られています。そして、相手の子は、嬉しそうに手を伸ばし、お礼を言うかのようにお辞儀をしたりすることもあります。

好きな遊びを自分で見つけて楽しみながら、側にいる他児へと興味が広がり、自分から関わろうとする姿が増え、こどもたちだけで遊べることも、少しずつ増えてきました。

保育者や他児と一緒に遊びながら、人と関わりをもつことの楽しさを、経験してもらいたいと思います。

ゆき組 佐々木愛未



おはながわらった



保育者がこどもたちに「いないいないばあ」とすると、こどもたちも同じように真似っこしています。次第に近くにいる友だちの前で、自分の顔を手でかくし「ばあ」。相手の子も同じように「ばあ」。そんなやりとりを、くり返し楽しんでいます。

また、友だちが使っている玩具が気になると、貸して欲しくて両手を合わせて「ちょうだい」アピール。それに気づいた相手の子は「あい」と笑顔で自分が使っているおもちゃを渡す、というやりとりが、見られることもあります。

信頼関係のできた大人とのやりとりを楽しみながら、友だちに興味をもち、関わりが広がっていくようにしたいと思います。

はな組 玉置 七彩

全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その5 子ども同士の関わりが 大切です

乳幼児期の心の発達には、愛着の形成が大切です。ここで言う「愛着」とは、簡単に言えば子どもと保護者や保育者、他の友だちとの間に生まれる心の絆です。

愛着が形成されていくと、子どもたちの人間に対する基本的信頼感が育まれ、その後の心の発達、人間関係に大きく影響します。

大好きなパパやママからたくさん愛情を受けられることはもちろんですが、子どもたちをとりまく多くの大人との愛着形成ができること、次は子ども同士の信頼関係が形成されるようになります。結果的に、「他者と一緒にいることが楽しい」と感じるようになります。

子どもたちの発達には、大人との愛着形成は大事です。同様に、子ども同士の信頼関係づくりや関わりが大切です。

例えば、ダンボールで基地遊びを行っている時には「やっやっやって作る?」「何がいる?」など、たくさんの方の対話が飛び交います。もちろん意見

が合わず言い合いになることも。しかし、それを解決するのも子どもたちの力です。「ここを持って!」「大丈夫?」「できた!」と言いながら、子どもたち同士でお互いを認め合い、作り出す力が自然に形成されます。



乳幼児期は、特に子どもの発達に差がある時期です。大人からの話をすぐに理解できる子どももいれば、理解が難しい子どももいます。

子どもたちは、できなくても、隣にいる友だちの姿を見ながら真似をしてみることで理解していきます。「わからない」なんて言わなくても、友だちと一緒に行動し、考えてくれるのです。

発達段階において子ども同士の関わりは、大きな意義があります。

また、子どもたちは、言語が異なり、言葉が通じない国の子どもたちと、会話がなくても手をつないで遊んだり、笑ったり、大人ではできない特別なコミュニケーション力も持っています。子どもたちには互いに育ち合う不思議な力があるのです。

子どもたちが、これから豊かなコミュニケーション力高め、お互いを尊重し、多様性を認めながら成長するためにも、子ども同士の関わりが大切だと考えます。